

ガスふろがまで爆発や一酸化炭素中毒が発生しています

外壁工事中に一酸化炭素中毒

事例

ガスふろがまを使用中、3人が一酸化炭素中毒で病院に運ばれた。(平成21年4月 東京都)

原因

外装工事で、ガスふろがまの換気口と給気口が養生シートで覆われていました。そのため、給気不足による燃焼不良で発生した一酸化炭素が換気口から室内に流れ込んだものです。



建物外壁の塗装工事中は、ガス機器の給排気筒(煙突)、換気扇などの給排気設備が養生シート等でふさがれていないことを確認してからガス機器を使用してください。

点火を繰り返したら爆発

事例

ガスふろがまの点火操作を繰り返したら爆発し、ふろがまが壊れて打撲を負った。(平成22年7月 富山県)

原因

点火操作を繰り返したために、漏れたガスに引火して爆発したものです。



火がつかないときは、点火操作を繰り返さないでください。機器内等にガスが滞留して引火します。空気を入れかえるなど、時間を置いてから再度点火してください。また、ガス湯沸器やガスこんろなどでも同様の事故が発生しています。

保管中のボタン電池が発火

事例

ボタン電池を袋に入れて保管していたら、ボンという音と煙が出て袋が焦げた。(平成21年11月 神奈川県)

原因

ほかの電池と一緒に袋に入れていたため、ぶつかりあってショートし、内圧が上がって破裂したものです。



包装から取り出した後に保存する際は、ショートを防止するために、それぞれの電池のすべての電極にセロハンテープやビニールフィルムを巻き付けるなどして、絶縁しましょう。硬貨やクリップなど電気を通す金属類に接触させたり、水に濡らさないでください。

火がなくても『自然発火』します!!

洗濯物が発火

事例

乾燥機付き洗濯機で乾燥運転中、白煙が出て異臭がし、洗濯物が焼けた。(平成22年3月 広島県)

原因

油が付着した洗濯物を乾燥したため、油が酸化し、その際に発生した熱がこもり、自然発火に至ったものです。



不飽和脂肪酸を含むアロマオイル、食用油、機械油、ベンジン、ガソリンなどが付着したタオルや衣類は洗濯した後でも乾燥機で乾燥させないでください。酸化熱で自然発火するおそれがあります。

塗料を拭いた布が発火

事例

塗装に使用したウエス(ぼろ布)を物置に放置していたら発火して物置と周辺の物が焼けた。(平成20年10月 三重県)

原因

使用した塗料の主成分であるヒマワリ油は、空気中で酸化して発熱する性質があります。その塗料が染み込んだウエスを長時間放置したため、酸化する際に発生した熱がこもり、自然発火したものです。



不飽和脂肪酸を含むひまわり油を使用した塗料は自然発火のおそれがあります。拭き取った布は焼却するか、水の入った容器に入れて処理してください。注意書きをよく読んで使用してください。

 このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。